

1. 事業所数が3年で5万増

カンボジア計画省統計局が中間年経済調査の速報値を発表し、全国の事業所数が 2011 年から 14 年の間に5万 396 カ所、率にして 10.9%増え、51 万 3,759 カ所になったと発表した。従業員の総数は 187 万 4,670 人になった。事業所の規模は緩やかに拡大する傾向にある。製造業の事業所数の伸びは1%未満と低調だった

2. カンボジア労働省、児童労働で昨年46 社摘発

カンボジア労働省が実施した児童労働の取り締まりの結果、昨年は46 社で346 人の児童が就労させられていたとして、摘発された。労働省は昨年、企業 110 社の工場 613 カ所を対象に計 633 回の検査を実施した。ただ、国際労働機関(ILO)や衣料業界団体は、「偽造した身分証明書で仕事を探しに来る人が多く、工場側の過失とは言えない」と指摘している。業界団体幹部は、「工場が児童を働かせていればバイヤーからの発注が得られず、損失が大きい」と述べ、故意に児童を働かせることはあり得ないと主張した。

3. 最低賃金、2018年には160ドル超

労働組合のリーダーたちは、2018年までに縫製業の最低賃金を160ドルにまで上げるという政府の声明に対し、鼻であしらうような態度をとっている。3 日間におよぶカンボジア国民党大会の最終日、情報担当の Khieu Kanharith 氏はスピーチを行い、「私たち政府は、縫製業の最低賃金を 160 ドル位まで引き上げようと考えています」といった発表をし、「フンセン首相は、2018年までに最低賃金160ドルを越えると予期しています」とも述べた。労務省が今年の最低賃金として定めた金額は、128 ドル。「2018 年には、国の経済も成長し、縫製業の労働者に 160 ドル以上を支払える状況になっていると思います。」と話すのは Cambodian Alliance Trade Union (CATU)代表の Yang Sophorn 氏。また、労務省のスポークスマン Heng Sour 氏は、「新しい最低賃金を話し合う場合は、今年の7月に予定されています。私たちは、労働組合や労働者、政府の声に耳を傾け、良い結論を導き出していきたいと考えています」、と話した。

4. 2014年の工場内失神者、倍増

2014年に起こった職場での失神数が、2013 年と比較して2倍以上になったことが労務省と National Social Security Fund (NSSF)の発表により判明した。全部で 1806 人が 2014 年に失神し、これは 2013 年の 823 人から 109 パーセントアップである。「なぜ自分が倒れたのか、自分でもわかりません」と縫製業に勤める Chan Soth 氏は話す。彼女もまた、去年仕事中に卒倒した経験がある。「でも、私と一緒に働いていた友達も、同じように倒れました。別の多くの人と同じで、めまいを感じてパニックになりました。たぶん、残業をし過ぎた事、休息と栄養が不足していた事が原因だったのではないのでしょうか」と彼女は話す。労働者が失神したと報告された全工場のうち、21 箇所はプノンペンに立地しているようだ。また、失神の原因として、換気の悪さや疲れ、気温や精神状態などが影響しているのでは、と政府は報告している。

5. 通勤時の死亡事故多発

通勤中の交通事故により死亡する縫製業従事者の数が、増加し続けているようだ。『The Dangerous Journey of Garment Workers in 2014』と題されたレポートの中では、労務省の National Social Security Fund (NSSF)が、「去年は 73 人が事故で死亡し、2013 年の 67 人から 6 人増えている」と報告している。事故による全体の死亡者は、去年 2148 人であった。縫製業界の労働者達を襲う、交通事故の数自体にはわずかながら減少傾向がみられるが、しかしながら負傷者の数は 2013 年の 4703 人から去年は 4737 人に伸びた。多人数を荷台に載せて運ぶトラックが、しばしば非難の対象となるものの、実際に最も多くの事故を起こしているのはバイクであり、去年の事故のうち 2669 件にはバイクが関わっていた。しかし、トラックも 348 件と見過ごせない数値で、2 番目に事故が多い車両となった。続いて 52 件がトゥクトゥクによるものだ。

NSS のポリシースタッフである Cheav Bun Rith 氏は、「交通事故の死傷者が増加しているのは、無謀な運転方法と、無免許運転が主な原因でしょう。交通省や内務省と一緒にプロジェクトを行い、交通ルールや運転技術を学ぶ機会を提供しています。試験は、直接各縫製工場で受けられるようにしています。今年も、試験は広くおこなわれる予定です」、と話す。また報告によると、2014年には、試験を受けに来た 1600 人のうち、786 人がドライバーとして免許を取得。割合は 50 パーセント以下にとどまっている様子だ。

ドライバーとして働いている Chan Sanvan さんは、いまは免許を取得していない状況だが、これから試験を受ける意欲があるという。「これまで取得の試験に時間を割くことができなかったので、免許は持っていません。でも、取得したいと

思っています」と話す。また、民間の交通安全コンサルタントである Ear Chariya さんは、いまや縫製業の従事者達にとって最も手軽な通勤方法となったトラックに対して一喝する。「まるで動物のように、トラックに詰め込まれています。座席もなければ、安全防護も欠陥だらけ。しかも、大半のトラック自体が古く、危険です」と話す。現段階では、政府はバスを用意したり車輛を整備したりするよりかは、ドライバーの教育に力を入れているようである。

6. 労働組合代表、竹の棒を所持して逮捕される

2/03、警察はプンペンの Apsara 縫製工場の前で、労働者代表のひとりを逮捕し、彼の所有していた 51 本の竹の棒を押収した。Choam Cha 地区の警察官である Ngo Serey 氏は、「私たちが逮捕したのは Solidarity Worker Federation 代表の Sieng Rithy 氏。彼は工場に大惨事をもたらした人物です。労働者たちがストライキをしていた際に、警察官が被疑者の車のトランクを調べる機会があり、その際にたまたま竹の棒を発見しました」と話す。

Apsara 工場ではおよそ 900 人が 1 月 30 日から 2 月 3 日にかけて仕事を放棄しており、労働状況の改善と賃金引き上げを求めるストライキをおこなっていた。警察は被疑者をすでに署まで連行しており、今後は彼に対する法的処置を考える予定だ。ジェネラルマネージャーもまた、労働者を暴力によって脅しストライキに駆り立てたとして男性を告訴した。工場の管理責任者 Phan Chea Sovannary 氏は、「1 月 31 日、彼は工場の前で労働者を脅すような行為を行い、”勇気があるなら戦え！”と彼らにストライキをそそのかしました」と話す。

およそ 50 本の竹の棒を所持していたことが判明した労働組合のリーダーは、2/03 の逮捕に引き続いて、2/05、プンペン裁判所に引き渡されることになっている。Cambodian Labour Solidarity Union Federation の代表である Seang Rithy 容疑者は、Por Sen Chey 地区の Apsara 縫製工場でストライキが発生した際、車のトランクの中に 51 本の竹の棒を隠し持っていた。警察官は、竹の棒は武器として使われる予定だったとしているが、Rithy 容疑者はこれに対し、「小さな旗を作るのに、使おうと思っていただけだ」と釈明している。「私たちのリーダーは、暴力は振るいませんし、ストライキをするよう仕向けたりもしていません。労働者達は、私たちの組合に助けを求めているのです。工場側こそ、私たちを脅すために悪い男たちを雇っていたのです」と組合の副代表である Lo Sopheak 氏は話す。

2/05 に行われた記者会見では、GMAC のメンバーと報道関係者が、あるビデオ映像を公開。その中では、工場の外に立つ Rithy 容疑者がメガホンで労働者たちに大声で話しかける姿が写っていたが、途中、メガホンをグラウンドに叩きつけて壊す場面があったという。誰が撮影していたのかと聞かれた際、記者会見のスタッフは「知りません」、といい「インターネット上で見つけた映像です」と話した。また、GMAC の事務局長である Ken Loo 氏は、同じ質問に対し、「そこは重要なポイントではありません」と話した。

Apsara 縫製工場のジェネラルマネージャー Khov Chhay 氏は、「Rithy 氏が所持していた棒は、明らかに暴動を起こすことを意図して用意されたものでしょう。なぜなら彼は以前フェイスブック上に棒の写真をアップしており、そこに”これは私達を雇う会社へのギフトだ”、といったコメントをしています」と話した。会見では『Rithy's organisation violent』というタイトルのプレスリリースが配布され、そこには「彼らの組織は、交渉での解決よりもまず違法で、しかも暴力的なアクションを好むようだ」といった内容が記載されている。「Rithy 氏率いる暴力的で法を犯すような組織が行うのは、交渉の代替案としては考えられない手段ばかりだ」との記載もある。

7. ココン州の巨大ダム、18 年までは認可せず

2/24、フン・セン首相は、同国南西部ココン州のクラバン山脈(カルダモン山脈)に中国企業が建設を計画している水力発電用の巨大ダム「アレンダム」について、2018 年までの任期中には認可しないと明言した。フン・セン首相は、「18 年までは絶対にアレンダムを認可しない。決定は後の世代に委ねる」とした上で、「アレンダムは検討段階にあり、政府はいかなる決定も下していない点を国会に文書で報告済み」と強調した。アレンダムは出力 108 メガワットの巨大ダムで、カンボジアの電力事情を飛躍的に改善させると期待される一方、2 万ヘクタールに及ぶ深刻な森林破壊につながるとして、カンボジア内外で反対運動が起きている。23 日にはスペインの環境運動家アレックス・ゴンザレス・デビッドソン氏が不法滞在を理由に国外退去を命じられたばかりだった。

8. カンボジア特別法廷、ポト派元幹部2人を訴追

3/03、1970 年代後半のポル・ポト政権下で起きた大量虐殺を裁くカンボジア特別法廷の共同捜査判事は、人道に対する罪などを犯した容疑でポト派の元幹部2人を訴追したと発表した。2人は元海軍幹部メアス・ムット容疑者と元地方幹部で政治犯収容所の責任者だったイム・チャエム容疑者。殺人や奴隷化、政治的理由による迫害、その他の非人道的行為などに関与した疑いが持たれている。特別法廷ではこれまでにポト派の元最高幹部ら5人が起訴され、うち3人が終身刑判決を受けた。しかし、これ以上の捜査拡大に対してフン・セン首相は、内戦に発展する恐れがあるとして反対する立場を取っている。

9. プンペン市、Cintri 社とのゴミ収集業務契約を見直す

廃棄物収集会社の Cintri 社がプンペン市と結んでいる契約書が近々見直されることになった。Cintri 社が業務を業務のパフォーマンスをなかなか改善させることが出来ていないためであるようだ。政府の Tekreth Samrach 氏は、2/20、レビューを行う書類にサインをした。Cintri 社はここ数年、ゴミ収集のキャパシティが都市の発展に追いついておらず、改善を求められていた。書類には「Cintri 社は、都市で増えつつあるゴミを全て集めるため事業拡大する必要があるが、今の会社にはその能力が備わっていない」と記されており、「政府の法律顧問や環境省が、契約書の見直しを行います。これは、Cintri 社以外の民間企業にも、ゴミ収集事業に参入のチャンスを与えるためでもあります」とも書かれている。Cintri 社は、2002 年からプンペン市のゴミ収集事業をまとめて委託されているが、その際の契約書は公には出ていない。



10. アンコール遺跡でのヌード撮影に困惑

ここ数週間、アンコールワット観光地で問題となってきた裸体での写真撮影に対して、意見が真二つに分かれているようだ。それは、「こういった行動は無視しておけばいい」、というものから、「アンコールワットへの立ち入りを禁止すべきだ」というものまでである。たった1ヶ月の間に、合計7人の観光客が、敷地内で裸になったことにより追い出される事態となっている。この中には2人のアメリカ人姉妹、3人のフランス人観光客などが含まれているが、フランス人に関しては、アンコールワット以外の別のシェムリアップ観光地においても、すでに同様に裸の写真撮影していた。

考古学的な遺跡の管理を担っているアプサラ・オーソリティーは、これ以外にも現在、別のヌード撮影2件の調査を行っている。発見された写真の一枚には、動物のマスクのようなものを被った裸のカップルがポーズをとっているものもあり、キャプションには「Hakuna Matata」と書かれていた。有名な観光地で服を脱いで写真を撮ることは時に「ネイキッド・ツーリズム」と呼ばれ、カンボジアに限った現象ではない。去年、ペルーの文化省は、15世紀のインカ帝国の名残であるマチュピチュで、裸になって歩き回る観光客たちに対して厳しい取り締まりを行った。

11. 最近の外資の進出状況

・デンソーがカンボジア新工場、16年稼働へ

2/20、デンソーは、カンボジアに新工場を建設すると発表した。投資額は約1,900万米ドル(約22億4,000万円)。2016年3月の稼働予定で、二輪車用のマグネトー(発電機)などをつくる。東南アジア諸国連合(ASEAN)での自動車生産の拡大に対応する狙いだ。現地法人デンソー・カンボジアが、首都プンペンにあるプンペン経済特区(SEZ)内に新工場を建設する。約10万平方メートルの敷地に9,600平方メートルの建屋を設置。マグネトーやオイルクーラーなどを生産する。17年に約380人の雇用を見込む。

・日光金属、アジア拡販に全力

自動車向けの耐熱・耐摩耗鋳造部品を手掛ける日光金属(栃木県矢板市)は、初の海外拠点としてカンボジアに立ち上げた現地法人を通じて海外展開を強化する。同国で生産する自動車部品の熱処理工程で使われるトレーやかごをアジアで拡販し、2018年に現地法人の年間売上高2億円の達成を目指す。

・双日ロジ、プンペン特区と協力、タイ-カンボジア陸路混載輸送

2/27、双日ロジスティクスは、プンペンとバンコクの東西660キロメートルを陸路で結ぶ定期混載輸送サービスを3月に始めると発表した。日系物流で初のサービスで、プンペン経済特区(PPSEZ)と協力し、特区に進出する日系企業の需要を取り込む。

・タイのCPインタートレード、精米所を第3四半期に操業開始へ

タイの袋詰精米「ロイヤル・アンブレラ」を製造・販売するCPインタートレードは、カンボジアで建設中の精米所が今年第3四半期(7~9月)中に操業開始すると話した。精米所は地元の実業家との共同投資で、年産能力は10万トン。欧州連合(EU)向け輸出を予定している。タイはEUによって一般特惠関税制度(GSP)が撤廃されたが、カンボジアは同制度が適用されている。このため、EU向け輸出でカンボジアに拠点を設置することを決めたという。

・ニッパツ、タイ子会社がカンボジアに合弁工場

3/03、ニッパツ(日本発条)は、タイ子会社の日本発条(泰国)=タイニッパツ=がカンボジアで自動車用シートの縫製部品生産の合弁会社を設立すると発表した。2016年4月に操業を開始し、20年度に売上高22億バーツ(約70億4,000万円)を目指す。合弁会社NHKスプリング(カンボジア)=ニッパツカンボジア=を今年4月、タイ東部サ

ケオ県のアランヤプラテートと国境を接するカンボジア北西部、ミンテイメンチェイ州のポイペトに設立する予定。資本金は1億 2,000 万バーツで、タイニッパツが 75%、タイを拠点に自動車用革シートなど皮革製品を生産するチャイワタナが 25%を出資する。ニッパツカンボジアの工場の敷地面積は約2万 3,520 平方メートルで、延床面積は約1万 2,000 平方メートル。16 年4月から自動車内装部品用縫製カバーを生産・販売する計画。

• **中国の華新水泥、カンボジアでセメント会社買収**

セメントメーカーの華新水泥(湖北省黄石市)は、カンボジアの同業セメント・チャクレイ・ティン・ファクトリー(CCC)の株式28%を追加取得し、傘下に収める。取得額は3290万米ドルを見込む。これにより、CCCに対する出資比率は68%に拡大する。CCCを通じ、カンボジアで日量3200トン規模のセメント工場の建設を加速化させる。

以上